

★研究大会のお知らせ★

愛知県道德教育研究大会
名古屋大会

11月21日(水) 13:30~
名古屋市教育センター講堂



心輝け 子どもたち!

人権週間にむけて

~「なごやING(いじめのない学校)キャンペーン」にも活用できる実践紹介~

各学校では「なごやいじめの(I)ない(N)学校(G)づくり」に向け、様々な活動に取り組んでいることと思います。

さて、12月4日から10日の1週間は、「人権週間」として位置づけられています。道徳では、人権尊重にかかわる指導内容として、「勇気」「思いやり」「信頼・友情」「男女の協力」「公正・公平」「正義」等があります。これらの指導内容の資料を使った実践を2つ紹介します。この他にも、「名古屋市小・中学校教育課程 道徳」には、人権教育にかかわる主題名に、**人**の記号が記してあります。参考にしてください。

小学校2年「白いくつ」2-(3)仲よし・助け合い

出典：あかるい ころろ2年(県教振)

資料の概要

きよしとたろうは、少しのことですぐにけんかをしてしまう。今日もとっくみ合いのけんかをして、先生に仲よくするように言われたばかり。そんな学校の帰り道、小川を流れてきたきよしの白いくつを見てみんなが騒いでいる中、たろうが駆けだしてくつを拾い、照れながらきよしに渡す。



指導のポイント

まだまだ、自己中心的なところもあり、仲のよい友達ともけんかをしてしまう低学年の児童にとって、共感できる部分が多い資料です。けんかをしているときの気持ちを十分に引き出した上で、流れてきたきよしのくつを拾ってあげたときの気持ちを考えると、たろうの心情の変化に気付くことができます。

動作化をさせて、場面の様子を再現しながら、きよしとたろうの気持ちを話しあうなどの展開が考えられます。2人がにっこりとほほえみ合う姿から、仲よくすることの素晴らしさを感じ取らせることができたらよいと思います。

たろうがきよしの靴を拾ってあげたのは、どんな気持ちからでしょう。



中心発問例

中学校「違うんだよ、健司」2-(3)信頼友情

出典：中学校道徳読み物資料集(文部科学省)

*文部科学省ホームページよりダウンロードできます

資料の概要

適当に合わせているのがいい友達関係だと考えていた僕は、転校してきた健司から、「そんなのが友達と言えるか。」と言われる。ある夏の日、生活が乱れがちになった耕平を心配した健司に誘われ、3人で親戚の家に遊び行きます。そこで出会った健司の祖母とその友達の様子を見て、3人は、友達とは本来どうあるべきかに気付きます。

指導のポイント

中学生になると、悩みや喜びを同世代の友達に理解してほしいと思うようになります。そのため、友達を失うことを避けようと表面だけ合わせて同調している場合も多くあるでしょう。

そこで、資料を通して、互いに励ましたり忠告したりしあえる信頼関係を築くことの大切さを自覚させていきたいものです。

3人のそれぞれに対する思いを相関図のように図示しながら、僕、耕平、健司の人物設定をはっきりさせて話しあうと効果的です。



夏の大三角を見ながら、僕はどんなことを思っているだろう。



中心発問例

道徳の時間を要とする道徳教育の工夫

10月16日(火)に、テーマ研究部会の授業研究が行われました。(小学校5年) 主題名「苦しいときだからこそ」4-(1) 公徳心

出典：『小学校道徳読み物資料集』(文部科学省)

本実践に至るまでに、他教科等の学習や体験活動と、道徳の時間とを関連させた規範の「関連プログラム」を作成し、実践を行いました。

要となる道徳の時間(本実践)

人々が給水車の前に並んだのは、どうしてでしょうか。



[水たまりの水を提示している様子]

複数の教科等の授業を関連させたことにより、本時では「並ぶ」をキーワードとして、周りの人のことを考える大切さに児童は気付くことができました。

コラム

心のアンテナ

教え子は大事な宝・財産

~女性記者 山本美香さんとの思い出~

神の倉中学校校長 古屋 桂

教員生活の中で、いろいろなことがありました。しっかり教え導いていれば、もっと有意義な人生を送ってもらうことができたのにと後悔する毎日です。

私の教師としてのスタンスは、私が出会うことができた生徒を幸せにすることです。私のすべての知識や考え方や信念を子どもたちに伝えて、それを基に生徒が成長してくれることです。

8月21日の夕刊で「シリア邦人女性記者死亡」という記事を目にしました。「ジャパンプレス所属の山本美香さん45歳」と写真入りでありました。私が教師になって4年目に会った生徒です。学級委員長・テニス部キャプテンで、明るく、とても素敵な子でした。中学3年生の時、将来の夢は「新聞記者になって、世界中を見て回りたい」と言っていました。

シリアは今、内戦状態にあります。政府軍と反体制派が武力衝突しています。同じ国の中で、同じ国民が戦争をしています。空爆、戦車砲、銃撃と、ひどいときは1日に150人が死亡しています。本当に悲しいことです。ジャーナリストは、自分の身の危険を顧みず、戦闘の真実を全世界に伝えようとしています。こんな中で、政府軍にとって邪魔な存在のジャーナリストが今までに何人か殺されています。こんなことがあってよいのでしょうか。

美香さんは、地元の小中学校・高校、大学にも講演に行っています。早稲田大学での講演や地元の中学校での生徒たちとの記念写真が印象的です。一人のジャーナリストの死が、とても残念でなりません。

教え子は教師にとって大事な宝・財産です。教え子の健康と成長を、祈ってやみません。



テーマ研究部会の授業の詳しい内容についてお知りになりたい方は、平成25年1月30日(水)

教育館 講堂

にて開催される発表会に、ぜひご参加ください!

